

住み続けたいまち 自由が丘

自由が丘市民協議会

自由が丘地区は、昭和40年代前半から阪神間のベッドタウンとして神戸電鉄沿線に開発された新興住宅地です。40年代半ばから入居が始まり平成10年に約18,000人の人口ピークを迎え、現在は15,672人（令和5年8月末現在）で、三木市全体の約2割の方が自由が丘に住んでおられます。

当地区は、団塊の世代の住民の方が多く、少子高齢化が一段と進んでいく中、平成23年4月1日、自由が丘市民協議会がスタートしました。自由が丘をより安全・安心で快適なまちにするため取り組んできた活動を継続・発展させることにより、自由が丘公民館を地域の交流広場として充実させるよう心がけてきました。

自由が丘では、「ふれあい ふるさと 住み続けたいまち 自由が丘」をキャッチフレーズに、様々なまちづくり事業に取り組んでいます。

安全・安心・快適なまちづくり

自由が丘消防隊

災害時に初期活動を担う専門として平成23年度末に結成、平成26年度からは市民協議会に参画し、自主的な活動をしています。令和5年度は、火災予防の講話や震災についての館外研修を行いました。



納涼盆踊り大会

自由が丘の夏の一大イベントで、2日間にわたり開催しています。盆踊りを楽しみに自由が丘に帰省される方も多く、ふるさとのお祭りとして定着しています。



自由が丘連合自主防災訓練

地域住民の安全を確保するため、阪神淡路大震災以降訓練が始まりました。防災意識の高揚と防災技術の習得のため、自治会・消防署・デイサービスセンターや中学校など多くの団体が協力し大々的に開催しています。



人権尊重のまちづくり研修

自治会、老人会、社会教育推進委員など幅広く参加を呼びかけ、人権尊重のまちづくりを推進しています。昨年度は水平社博物館と明日香村を訪問しました。令和5年度は、長島愛生園歴史館を訪れる予定です。

環境のまちづくり研修

衛生常務委員を中心に、幅広い環境に関する知識を取得するために視察研修を実施しています。令和5年度はパナソニックエコテクノロジーセンター及び三木市清掃センターを訪れる予定です。



ウォーキングフェスティバル

住民の交流と健康維持を目的に、地区内の集会所を徒歩で巡るスタンプラリーを実施しています。

小さな子どもさんから年配の方まで、幅広い年齢層が参加できるため、秋の恒例行事として定着しています。

